

令和6年度 第1回学校運営協議会 【会議録（概要）】

■ 開催日時 令和6年6月17日（月）15:00～16:30

■ 会場 盛岡第四高校会議室

■ 出席者 14名（欠席1名）

《校外委員》遠藤可奈子様、坂本理様、及川美奈子様、山本誠様、菅原まゆみ様、赤澤徳俊様

《校内委員》校長：川崎広幸、副校長：千葉浩、副校長：小野寺一浩、事務長：浅沼佳子、総務主任：櫻庭隆夫、教務主任：渡邊健、生徒指導主事：松原啓之、進路指導主事：五日市弘誉

■ 次第

1 開会

2 校長挨拶

3 辞令交付

4 出席者自己紹介

5 協議

(1) 会長、副会長の選出

会長に遠藤可奈子様、副会長に米慎司様を選出

(2) 令和6年度学校経営計画について

・資料2～3頁について学校長より説明。

・資料2頁、4目指す学校像、(2)取組方針、イ(イ)において、「新課程入試制度への対応及びその情報提供と・・・」に訂正。(脱字の追記)

(質疑等)

・朝読書について、生徒に読む本の提示をしているのか。新聞でも良いのか。

→各自で本を購入する等、準備するように伝えている。

・県内の県立高校で、朝読書を導入したのは盛岡四高が最初であると聞いている。良い指導のきっかけとなるものと考えている。

・「達成指標」に具体的な数値を示していることについて。教育活動の成果を数値で求められるということは、先生方にとって相当しんどいことであろうと拝察する。

〔令和6年度学校経営計画について承認〕

(3) 令和6年度各課重点目標について

・資料4～9頁について各課主任より説明。

(質疑等)

○総務課

・教員の働き方改革の観点から、前例踏襲ではなく、会議の精選等、踏み込んでいくことが必要と考えるが、学校ではどのように取り組んでいるのか伺いたい。

→先生方の負担の軽減等の観点から、例えば、PTAの各種委員会の連絡にはLINEやeメッセ

ージを活用する等、工夫して取り組んでいるところである。他方で、PTA 理事等の会合は、理事の方々の仕事の都合などにより、先生方の勤務時間後に設定している。大胆な改革は難しい面もあるが、以前に比べると時間や労力の削減はなされているものととらえている。

- ・「子供の学校のPTA活動がある」という理由で仕事から早く帰りやすくなる等、社会的に理解が進んでいくことも必要と考える。
- ・民間企業では、労働基準法に基づき、社員の労働時間が基準内におさまるようにしている。他方で、学校現場では、その学校の戦略や生徒・保護者のニーズに応えるため、進学実績の向上を追求していくことにより、先生方の労働時間が長くなり負担が増加するというジレンマに陥りやすい傾向にあると感じる。
- ・学校現場においては、「働き方改革」は「努力義務」であることに対し、「生徒への対応・指導」は「義務」であることから、生徒のためなら先生方は献身的に働いている状況にあるのではないかと拝察する。勤務時間外の電話対応を軽減するために留守番電話を活用することや、保護者等への連絡にメールを活用する等、できることから取り組んでいくことが必要ではないか。
- ・学校における働き方改革を進めるためには、先生方の人数を増やすしかないのではないかと受け止めている。
→中央教育審議会や文部科学省からも、学校現場における教員が担うべき業務等について整理し示されていることから、これらに基づき、本校における業務の在り方を検討することができるのではないかと受け止めている。
- ・同窓会やPTAに係る事務局業務の在り方についても、検討する時期にあるのではないかと受け止めている。

○生徒指導課

- ・自転車ヘルメットの着用状況について伺いたい。
→本校では、ヘルメットの着用を通学における許可条件とはしていないが、着用を強く推奨しているところである。
- ・自転車のヘルメット着用は事故防止の上で大事なことであるので家庭の協力いただきながら進めてほしい。

○進路指導課

- ・昨年度、平常課外を行わず、生徒に時間を返した取組を行ったことは、勇気ある判断であったと思う。そのことによる課題はあったか。
→学習習慣が身に付いている生徒とそうではない生徒との間で差が付いたのではないかととらえている。生徒たちが時間を返されたことにより、その時間を有意義に活用した生徒は成績を向上させた。平常課外を行わなかった分、数学がわからないから教えてほしい等、生徒からの個別の要望に対しては、先生方は丁寧に対応していた。
- ・生徒自身に勉強させるという取組は、学校として本来的な対応であると考え。過渡期にある時期は、生徒の様子を見ながら対応していただきたい。

[令和6年度学校経営計画について承認]

(4) その他

- ・資料 10～12 頁について説明。

(質疑等)

- ・なし

5 意見聴取・ご提言

- ・本日の学校側からの説明、回答を聞いて、今までにない新しい風を感じた。令和という新しい時代を生きる自由さとたくましさを備えた生徒の育成に向け、今後とも取り組んでいただきたい。
- ・盛岡四高のこれまでの伝統を重んじつつ、新たな挑戦にも臨んでいくという現在の学校の姿勢を今後とも続けていただきたい。

6 その他

- ・第 2 回は 2 月 17 日（月）を予定している。

7 閉会